

トロピカルフルーツの風を 鹿児島から



幻の国産アボガド



篤姫も食べていたライチ

講師：東愛理さん（ゆす村農園、本学OG）

日時：2013年1月23日（水）10:20～11:50

場所：2号館1F第9講義室

どなたでも参加できます!!!

主催 鹿児島県立短期大学商経学会

問い合わせ：福田忠弘

fukuda@k-kentan.ac.jp

099-220-1111（内線360）

講師紹介

東 愛理（ひがし・あいり）さん



鹿児島県日置市でトロピカルフルーツの苗木を生産・販売する「ゆす村農園（有）」の経営者。

昭和60年、鹿児島市生まれの27歳。本学、商経学科経営情報専攻のOG。在学中にトロピカルフルーツの栽培を手がける。

自身のブログ、「ゆす村農園のトロピカルフルーツ日記」で日々の活動を紹介している。

<http://blogs.yahoo.co.jp/sunsun01jp>

講演内容

「幻の国産アボガドを作りたい」、「篤姫が食べていたライチを栽培してみたい」。そんな夢を実現するために活動している、東さんをお招きします。東さんは現在、鹿児島発のトロピカルフルーツを売り出そうとしています。特に力を入れているのはアボガドです。アボガドは、「森のバター」と言われるほど栄養価が高いことで知られています。しかし、私たちが食べているアボガドのほとんどは南米からの輸入品（その額約105億円）です。日本国内で作られるアボガドは、「幻」と呼ばれるほど貴重なものですが、東さんは、「幻の国産アボガド」をより身近な食材にするために、日夜、奮闘されています。

そして「ライチ」。ライチと言えば、中国の絶世の美女、楊貴妃が好んで食べたということでも知られています。なんとこのライチ、かつては鹿児島でも栽培されていて、あの篤姫も食べていたようです。それだけではありません。鹿児島では、ライチの他にも、リュウガンなどのフルーツも作られていました。東さんは、こうしたトロピカルフルーツを鹿児島に根付かせるために、様々な活躍されています。

「アップルマンゴー」と言ったら宮崎県のイメージが強いですが、「国産アボガドやライチと言ったら鹿児島」というイメージができると、鹿児島の地域経済にもプラスの影響を与えること間違いなしです。

直接、東さんのお話をお伺いできる良い機会です。多くの方の参加をお待ちしています。